

こんにちは 議会です

紀の川市議会だより

平成23年[2011]11月1日発行

No.19



かわいい稚児行列
(名手八幡神社正遷宮)

- 定例会報告 2
- 市政を問う(一般質問) 6
- 委員会報告 12
- 「特集」紀の川市の天然記念物 14

平成23年第3回定例会

平成23年第3回定例会は、9月2日から10月3日までの32日の会期で開かれました。

本定例会では、54件の議案が提出され慎重に審議した結果、すべて原案どおり同意・認定・可決しました。

また本定例会には、平成22年度一般会計・特別会計・企業会計の決算議案が上程され、一般会計については9名の委員で構成する決算審査特別委員会を設置し、2日間かけ、どのような成果があったのかを慎重に審議し、特別会計・企業会計については、常任委員会で審議され、全ての決算議案を10月3日の本会議において認定しました。

一般質問では8名の議員が登壇し、当面の行政課題を質しました。

主な議決事項

■五色台広域施設組合規約の変更に関する協議

五色台広域施設組合に紀の川市の全域が加入（今までは貴志川地区のみ）するのに必要な規約の変更について協議・議決を行いました。

■工事請負契約の一部変更（新庁舎建設工事）

新庁舎建設を進める中で、地中障害物やアスベスト除去などの追加工事が発生したため、契約金額を1千457万6千1百円増額し、43億4千719万1千1百円とすることを議決しました。

- ・人権擁護委員の推薦（3件）
- ・紀の川市都市計画税条例の一部改正
- ・紀の川市道路線の認定・変更（2件）
- ・特別会計補正予算



五色台聖苑

平成23年度
一般会計補正予算(第2号)

補正予算の総額は、6億5千31万1千円でした。実施する事業の主なものは次のとおりです。

まちづくり推進事業費【421万5千円】

新しい公共の場づくりのためのモデル事業補助
貴志駅「たまステーション」を中心に、最近普及しているノルディックウォーキングを中心に他団体との交流を図り、コースマップの作成、地域情報ステーションの設置などの整備を進める。

わかやま電鉄、行政、NPO法人、駅周辺地域が一体となった魅力あるまちづくり、地域活性化をはかる。



貴志駅周辺を活性化

五色台広域施設組合負担金【1億円】

紀の川市全域が加入するための負担金は、約4億円であるが、その内1億円を今回補正計上する。

残りの3億円については、式場や火葬炉の改修工事完了後、供用開始した年から5千万円ずつ6年間かけて支払う。

粉河中学校移転改築工事費 (土地造成工事) 【2億7千545万円】



建設予定地の有害物質の含有量は基準内、または検出されていないが、土壌に含まれている物質が溶け出して影響を及ぼす溶出量基準で一部基準を超えた物質がある。

そのため、それが地下に溶け出した場合の摂取リスクを軽減するため、地表から約70cmにアスファルトを施し、地下水への浸入を防ぐ工事。

この事業に対しては、土地購入時の事前調査、また、今後の市の財政に対する影響等に関する質問があり、子ども達が安全に勉学に励めるよう、もつとも安く、安全性を考慮した提案であるとの答弁があった。

池田小学校講堂 とり壊し事業費

【3千908万2千円】

耐震性に問題があり、使用禁止となっている講堂をとり壊し、児童の通路と教職員の車の通行する部分が交差しているのを区分し、駐車場として利用する。



取り壊される池田小学校講堂

塵芥処理施設 工事費

【2千万円】

打田美化センターの老朽化している炉の機能を高めるための取りかえ修理の費用。



打田美化センター

青洲の里施設整備事業費 【567万円】

老朽化した青洲の里研修棟(華別館)の調理場を改修し、施設の活性化と利用促進を図る事業。



青洲の里 華別館

都市公園 整備事業費

【500万円】

県の補助を受け、平地緑地公園にバッキ式噴水1基を設置し、観光地としての魅力向上、環境改善をはかる。



徹底チェック!

平成22年度紀の川市一般会計決算

9月13・14日の2日間、9名の決算審査特別委員が慎重審議を行い、10月3日の本会議において賛成多数で認定しました。

借地料の削減努力は

市が借りている借地料については、出来るだけ安くしたいと考えているが、旧町時代からの借地料についてはそのままになっている。
しかし、合併後にJA紀の里から借地した駐車場は、1割の減額、貴志川支所の駐車場も減額している。
また、将来的には借地の返還も考える必要がある。

市のメール情報の活用は

紀の川市メール配信サービスは、防犯・防災・工事規制・行政情報・観光イベント・生活・健康の6つのカテゴリに分類した各種情報を配信している。
平成22年度末の登録者数は1千842名で、長期総合計画の目標では人口の2割程度の方に配信する計画だが、登録者数が少ない原因として、市民にこの事業が十分浸透していないこと、市民が求めている情報が発信されていないことではないかと考える。今後、市民が必要とする情報を必要な時に配信するよう

登録方法

または、



「kinokawa@entry.mail-dpt.jp」へ空メールをお送りください。
ドメイン指定受信を設定されている方は、「city.kinokawa.lg.jp」からのメールを受信できるように設定してください。

*サービスのご利用は無料ですが、メールの受信、登録・解除などメニューへのアクセスには、パケット通信料がかかります。

にぎわう産業祭りを

市の基幹産業である農業を主に商工会、JAなどの協力を得て、新しい催しにも取り組んでいきたい。
今後の課題として、例年開催している食育フェアやJAのふるさとまつりなどとの合同開催も考え、今後十分協議、検討を重ねてより良い方向にしていきたい。



増える耕作放棄地対策

放棄地の適正管理を行なうために、地主に対し指導文書を送付している。本人が管理できなければ、シルバー人材センターなどの業者を斡旋している。放棄地の現状は、平成22年11月で約255haで、平成

21年度と比較して約10%から15%増えている。今後、JA紀の里と連携をとりながら、耕作放棄地にならないよう利用権設定等の指導を行ってきたい。

粗大ごみ回収

粗大ごみの回収を復活してほしいという意見を受け、市民からの要望が

あり、自治区の協力が得られれば地区ごとに粗大ごみ回収を行う。

子どもたちの悩み相談

学校への教育相談が平成21年度より増加している。平成22年度は1千809件で、内容はいじめや不登校など様々である。
適応指導教室「ほほえみ教室」の対象者で、通っている子どもは19名、通っていない子どもは50名いる。
また、相談された子どもたちの中には、不登校になった状況を相談し、学校に復帰した子供もいる。

学童保育施設の耐震化は

市内10ヶ所の施設の内、建築基準法改正前の昭和56年以前の建物が4ヶ所あり、貴志川のこどもくらぶ以外は、耐震診断の結果大丈夫な施設か、補強済みの施設である。

また、貴志川のこどもくらぶについては、貴志川支所の跡地利用など総合的に考え、安全で安心な学童保育に取り組んでいきたい。

商品券を市民以外に販売は

商工会発行のプレミアム商品券を紀の川市民以外の人に販売できれば、経済効果も上がるのではという意見もあるが、市からも補助金を出している。その部分が市外の方に補助するという考えにもなる。
紀の川市の活性化を図るために市



完売しました。(平成23年度分)

民に限定している。

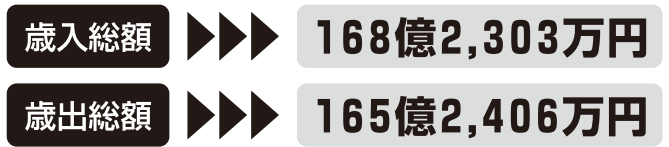
長引く不況が影響

地方税回収機構による市税の徴収効果も見られるが、自主財源の根幹をなす市税は、長引く不況に伴う雇用状況の悪化や人口減少により平成21年

度比へ1.8%減少している。法人市民税や軽自動車税は増加しているが、個人市民税の約1億8千800万円の減収が大きい。

特別会計決算

特別会計とは、特定の事業を行う時、一般会計と区分し経理する必要があるときに設置できる会計である。
平成22年度より、6つあった簡易水道会計が一つに統合され、合計23会計となっている。



公営企業会計決算

紀の川市の公営企業会計は、水道事業会計と工業用水道事業会計の2会計です。
平成22年度に水道料金の改定がなされたため、給水収益では平成21年度に比べると約9千万円の減収となっている。

	水道事業会計	工業用水道事業会計
収益的収入	13億2,801万円	4,960万円
収益的支出	12億3,699万円	2,048万円
資本的収入	3億5,955万円	2億7,930万円
資本的支出	7億2,608万円	3億83万円

※金額は万円単位 四捨五入で表示しています。

いっばん質問

市政を問う

井沼 武彦 議員

- 和歌山国体について
- 食の安全対策について

亀岡 雅文 議員

- 農業用水路の管理について
- 防災について

寺西 健次 議員

- 災害対策について

田代 範義 議員

- 公立那賀病院に科を増設することについて（市の考えは）
- 市内の街灯をLED球に替えては
- 学校図書館整備推進について

榎本 喜之 議員

- 国体開催の施設について

吉田 隆三郎 議員

- 上下水道の整備等について

岡田 勉 議員

- 定住促進と空き家対策について

石井 仁 議員

- 国民健康保険事業について
- 福島第一原発事故と紀の川市の対応について
- 中学校での武道必修化について

一般質問の内容については、要旨のみ掲載しています。

なお、原稿については、各質問者が投稿したものであり文責は質問者にあります。

くわしい内容を知りたい方は、会議録の閲覧ができますので市議会事務局議事調査課までお問い合わせください。（TEL 0736-77-0892）

夢、感動与える 国体の成功



模擬国体ソフトボール大会

答 国体対策局長

選手・関係者の宿泊施設が不足するため民泊は避けて通れないので市民の皆様にご協力いただきたい。

問

わかやまがめざす国体基本目標の中で、「国体は一過性のイベントではなく継続したスポーツ振興」とある。

紀の川市も国体に出場する選手の手育成と、そのための予算は。

答 市長

選手の育成には今、休校している桃山小学校の体育館を体操の選手強化の練習場として提供している。

また、来年度予算の中で選手強化に必要な予算は前向きに考える。



井沼 武彦 議員

学校給食の食材は安全か 問

農産物流通の中で放射能の検査により農産物の安全性は保たれていると思うが、学校給食の材料は安全か、そのチェックは。

答 教育部長

学校給食の食材は、栄養士が学校給食衛生管理基準に基づき、安全安心な食材を日々チェックして、安全確保に努めている。

問

9月に入ると稲の刈り取りが行われる。県・市において放射能の検査をしないのか。

答 農林商工部長

水田土壌の放射性セシウム濃度の調査は、総理指示対象自治体を主にやっている。また、県の検査は義務付けされていないのと大気と上水のモニタリング調査で放射能数値は平常範囲内のため当面実施しない。今後も的確な対応をしたい。

明日は我が身 地震対策を



災害に備えて(防災訓練)

答 総務部長

東海・東南海・南海地震が同時に発生した場合震度は5弱〜6弱で、建物の全壊が55棟、人的被害は死者26人。

中央構造線の地震は、震度6弱〜7、建物の全壊1万1千771棟、死者は653人と想定している。

問

古い木造住宅の倒壊が心配されるが。

答 建設部長

東日本大震災以後、地震が続いており、紀の川市においても巨大地震が心配されるが、予想される地震の規模と被害の想定は。

以前より木造住宅を対象に耐震無料診断を実施しており、その結果耐震補強工事が必要な家の方には、補助金制度の説明をしながら耐震化工事の推進をしている。



寺西 健次 議員

問

今の子ども達は、巨大地震と遭遇すると思われる。

防災教育が大変大事だと思うが。

答 教育長・教育部長

防災教育は、児童生徒が防災対応能力を培う事を目的として行われ、各学校共に防災マニュアルを作成し防災訓練や避難訓練を実施している。

そんな中で荒川中学校が「防災功労者内閣総理大臣賞を受賞した。

同校は地域と共に防災教育に取り組み、防災知識や防災力向上につなげた。これらの事が認められた結果である。

問

先の東日本大震災において、251人の消防団員が殉職された。本市においても公務中の消防団員に万が一の事があっても補償は万全か。

答 市長・総務部長

各種の損害補償制度があり活用される。今後、これらの制度の更なる充実を目指し、県や国に働きかけていきたい。



榎本 喜之 議員

粉河運動場は河川敷のため国交省の管轄であり、先催県においても河川敷で開催された例がなく計画立案後、国交省の指示を仰ぎ、協力をお願いし、万全を期したい。

問

平成27年度に開催される紀の国わかやま国体。紀の川市で開催される種目の施設については、中央競技団体の視察を受け、どのような指摘事項があったのか。今後どのように整備していくのか。

答

市長・国体対策局長

国体開催における施設整備は原則として県の施設は県が、市町村の施設は会場地市町村が行なうことになっている。

桃源郷運動公園はコナーキック部分の人工芝での拡張、夜間照明の設置などが必要である。

貴志川ソフトボール場においてはグラウンドの土の補充、散水用の水道の設置、電気設備などが指摘を受けている。

総合体育館の建設を

問

ただ、9月の台風12号により壊滅的な被害を受け、元の状況への復旧は不可能ではないかと考え、浸食された箇所の補修はやってもらわなければならぬ。

今後の整備の進め方、特に打田体育館について現在の場所とはスポーツ施設が集まっており、この際現地の建替えは出来ないか。



打田体育館

答

市長・国体対策局長

打田体育館はフロアが狭く拡張する必要がある。耐震補強工事を含めた増改築・拡張または建替えも含めて検討している。総合スポーツゾーンとしての整備も視野に入れ、費用が問題となるが早急に向向性を出していく。



岡田 勉 議員

空き家・放置農地を活かせ

問

都会から本市に移住をして、農業を始めたいという方に、行政が農地や空き民家の紹介等をして活性化につなげては。

答

農林商工部長

空き家・農地・人材バンク事業ということで現在調査をしている。いろいろな問題点や課題があると思うが、本市でもどうしても農業をしたという方の受け皿対策に取り組みたい。

問

行政機構の中に定住のための専門的な部局が必要と考えるが。

答

市長

今は農林商工部が担当しているが、専門的な部局をつくることは、これからの課題である。今後担当を決めて、そういう取り組みをしていきたい。

問

県は、廃屋を未然に防ぐ目的と、必要な勧告や命令を出すことができる条例をつくった。「倒壊の危険がある廃屋があるが対策はないものか」と相談を受けるが、住民の不安解消ということからこの県条例をどう受けとめるのか。

答

建設部長

建築基準法等で対応できていなかったそれぞれの課題が、この条例によって解決されていくことに大きな期待をしている。



どうする廃屋対策

問

廃屋を撤去するために市として支援策を検討してはどうか。また、住民の安全確保という防災面からこの条例をどう受けとめているのか。

答

市長

周辺に対して危険というところの方が景観より大事ではないかと思っております。県条例をなお一層、いろいろな角度から進めていくうえで、市としても対応できる様なことを考えていきたい。



亀岡 雅文 議員



農業用 水路を守れ

問 近年農業者の離農や高齢化で、農村資源の維持管理が困難になり放置水路や危険水路が増加しているが、実態調査を行っているが、実態調査を行い保全管理に向け対処できないか。

答 農林商工部長

平成19年度より、農林水産省の事業として、農地・水・環境保全向上事業が市内44地区で展開され、本年度も農業施設の長寿命化活動資金事業を創設した。

今後は地域全体で組織を編成していただき、問題点等を話し合い協議させていただきたい。

問

へき地や限界集落など民家や人口の減少していく地域については、市単独の施策を講じられないか。

答 市長

水路の改修については50%の補助を行っているが、区長さんや役員さんを中心に農業者だけではなく、地域で守っていきけるような組織作りを市としても推進していく。

災害に備え

問 家具転倒防止器具の配布、設置及び呼び笛の配布の考えは。

答 総務部長

県が本年度要援護者のみの世帯に家具固定器具のみを負担していただき無償で取り付けを行っている。

呼び笛については、防災研修参加者に配布する方法なども考え、効果についてもPRを行っていく。

問

防災情報案内サービス(テレドーム)の開始及び仮設トイレ専用のマンホールの設置を。

答 総務部長

和歌山市で運用開始している状況をよく聞き研究する。

仮設トイレ専用のマンホールについては、公共下水道の供用開始に合わせて、種類や購入時期共に検討していきたい。

街灯を LED球に

問 市道の街灯、公園、運動公園、防犯灯等を消費電力が少なく、CO₂の削減にもなるLED球に替えては。

答 市民部長

今回、県の補助制度を利用し、市内155基の防犯灯をLED球に取り換える。LED球は、地球温暖化防止にも役立つことを考えれば、当然、消費電力の少ないLED球への交換は必要と考える。

今後は、市単独事業となるため、器具の損傷度、設置場所、効果等整理し故障、交換時期が来たものからLED球への交換を検討したい。



田代 範義 議員

問

各自治区から要望がある防犯灯をLED球に交換していく考えは。

答 地域振興部長

新しく防犯灯を設置する費用については助成をしているが、今の補助金交付要綱では既存の防犯灯は補助対象にならないため、LED球に交換するのは難しい。

今後、各自治区の区長さんの意見を聞き調査、検討していきたい。



問

新庁舎にもLED球を。

答 総務部長

設計協議のおり照明器具等も電力料金、寿命、CO₂等検討し、執務室は蛍光灯を、廊下、エレベーターホール等はLED球を採用する方向。

学校図書を活かそう

問

今年度より「言語力の育成」をうたった学習指導要領がスタートしたことで学校図書館の役割が増すと思うが本市は人的・物的の面で十分か。

答 教育部長

各学校においては現時点での図書充足率は100%(小学校105%、中学校91%)となっている。

司書教諭についても満たしているの、これらの司書教諭を中心に図書館の活用をはかっていきたい。



吉田 隆三郎 議員

上水道の整備を早く！

問

市内の水道未整備世帯が3割弱程度あり、生活水は自然水をいろいろと工夫して生活している。

しかし、近年の環境汚染や、有害動物による自然水の汚染が心配され、良質で安定した水の確保と供給が大切である。
未整備地域の方々の意見もいろいろあるが、先ずは市が全市の水道整備計画を立て、整備を進めていく必要があるのでは。

答

水道部長

未給水区解消の為、水道事業基本計画を作成しているが、事業を実施する場合、加入金や工事等、個人負担が高額になるこ

とから、地元の要望に基づき、順次整備を行っている。

答

市長

紀の川市づくりで、5町の調整を図り、バランスをとっていく大きな課題に、水道、下水道の問題がある。

簡易水道、上水道共に合体する必要と、山間部の皆さんと話をしているが、その地域ごとに見合った対策を検討し、平成29年度迄には方向を出し、水道問題の解決に当たっていききたい。

問

公共下水道の供

用開始区域内で、農地から宅地への転用を行い、新規に汚水マスを設置する場合の費用が

個人負担となっている。市負担で出来ないのか。

答

建設部長

供用開始後の汚水マス設置の取扱いは、計画区域内は市負担、区域外は認可を取得しておらず、個人負担となっている。

平成13年度時点で、農業振興地域内の農用地は計画区域外で認可を取得出来ず、個人負担で施工していたかどうか、合併浄化槽の補助を受けていたどうかの選択となる。



貯水タンク



石井 仁 議員

問
国保加入者の生活実態に対する市の認識は。

答

市民部長

他の保険加入者と比較すれば、離職者、低所得者が多く、景気回復の兆しが不透明な昨今、取り巻く環境は非常に厳しいものであると認識している。

窓口負担の減免を

問

一部負担金(窓口負担金)の減免制度は、昨年、国が基準を明確化し、保険者が窓口負担を減免した場合に、減免額の2分の1を特別調整交付金で補填されるようになってきている。

窓口負担金の減免制度の活用が求められていると思うが。

答

市民部長

紀の川市では、減免制度を実施したという実績はない。

今回、国の示した基準を基に、より具体的な取り扱いができるものに改正を検討していく。

放射能と子供の健康

問

紀の川市内の放射線量を市独自に調査する必要があると考えるが、どうか保育所、小中学校での給食食材の安全対策をどうはかっているのか。

答

保健福祉部長

放射能汚染の心配のない食材を納入するよう産地確認など、細心の注意を払っている。

答

教育部長

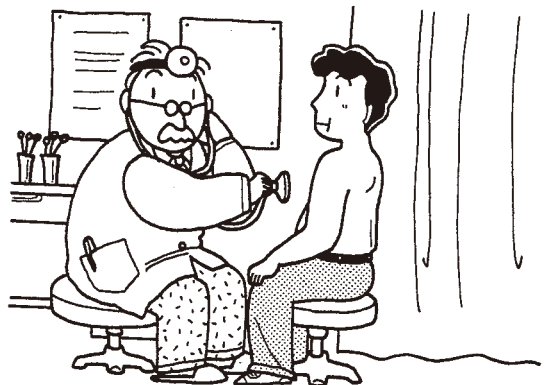
栄養士が確認のうえ、日々安全確保に努めている。

答

市長

何千万円もする放射能測定器は買えないが、各小学校に一つくらい、また少なくとも五地区に一つくらいは配備できるように注文をしている。

少なくとも学校給食等に使用される食物については、放射能の検査ができるようにしていく必要があると思う。



会派制を 実施しました。

昨年6月から会派制導入の検討を行い、本年8月1日から議会内の意見調整・初議会の運営など議会運営の効率化を図るため会派制を実施しました。

■紀の川市議会会派構成

(◎は、代表者)

会派名	議員数	所属議員名		
わかばクラブ	8	◎松本 哲茂	榎本 喜之	井沼 武彦
		坂本 康隆	阪中 晃	高田 英亮
		今西 敏文	西川 泰弘	
せいいりゆうかい 清流会	5	◎竹村 広明	村垣 正造	森田 幾久
		亀岡 雅文	上野 健	
こうめいとう 公明党	3	◎田代 範義	寺西 健次	室谷 伊則
にほんきょうさんとう 日本共産党	3	◎石井 仁	岡田 勉	吉田隆三郎
さっしん 刷新クラブ	2	◎杉原 勲	堂脇 光弘	
かわいちかい 川一会	1	◎川原 一泰		
しんわかい 真和会	1	◎大森 道夫		
無所属	1	原 延治		

意見書

「北朝鮮による拉致被害者 問題の早期解決を求める 意見書」を提出

(要旨)

「北朝鮮によるすべての拉致被害者の安否確認と早期帰国の実現を強く要望する。」

(提出先)

内閣総理大臣をはじめ関係省庁の大臣
(平成23年7月7日に提出)

おめでとうございます。



和歌山県市議会議長会 15年以上表彰を受賞

平成23年8月3日、和歌山県市議会議長会第1回総会において、永年の議員活動に対し紀の川市から原 延治議員(議員在任15年以上)が表彰されました。

(※町議会議員在任期間は1/3年として計算)

産業建設常任委員会

視察研修報告

産業建設常任委員会は、8月24日・25日の両日、熊本県山鹿市（やまが）市と福岡県久留米（くろめ）市へ視察研修を行いました。山鹿市は、平成17年1月に合併し、人口約5万9千人、面積約300平方キロメートルです。

視察は、「バイオマスタウン構想について」行いました。

山鹿市のバイオマスタウン構想は、バイオマス資源の総合的な活用将来像を描き、基本的構想や目標を示したもので、「人と自然が共生する環境づくりを基本目標にし、これまでの社会システムや市民一人ひとりの生活様式を見直し、ごみの減量化や再資源化により環境への負荷が少ない循環型社会を構築する」として行います。

具体的には、家庭のごみを分別して集積し、バイオマスセンターへ搬入しています。また、食品加工残渣も排出事業者が、同センターに搬入して



●山鹿市バイオマスセンター

バイオマス(Biomass)とは
木材、生ごみ、紙、動物の糞尿、プランクトンなど、石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料を除いた再生可能な有機エネルギー資源のこと。

久留米市は、人口約30万人、面積約230平方キロメートルです。

視察は耕作放棄地解消の取り組みについて行いました。

久留米市の耕作放棄地は、年々増加していて農地の適正な管理、意欲ある経営体への農地の集積を図ることが課題となっています。

主な取り組みは、農業委員、JA営農指導員等による放棄地の確認と解消

指導のためのパトロールや、市の単独事業で地区の営農推進協議会等が取り組む遊休農地対策への支援を行っています。

また、農業生産者の高齢化、後継者不足の解消とシニア世代の生きがいづくりを目的に農業サポートセンターを養成し、野菜づくりや梨園再生の支援活動、再生地でのイベント開催など消費者との交流やPR、農産物のブランド化など放棄地再生の取り組みが行われています。



●久留米市の梨園の再生

今回の視察は、本市の農業施策にとって非常に参考となるものでした。

総務文教常任委員会

視察研修報告

総務文教常任委員会は10月12日・13日の両日、静岡県御殿場市へ学校給食センター(PFI)事業についてと静岡県熱海市へ自主防災組織の取組みについてそれぞれ視察研修を行いました。

御殿場市では、学校給食センター1全4施設のうち、老朽化した2施設を統合し新給食センターを新設するにあたり、民間の資金・能力・ノウハウを活用し効率的に行うことにより、よりよい整備を図ることができるとの判断により、PFI法に基づき施設整備を行いました。

新給食センターの特徴として①HACCP対応による衛生管理対策②太陽光発電設備、高効率熱源機であるヒートポンプ給湯器等の採用による効果的な地球温暖化対策③廃油を回収し給食配送車のバイオ燃料として活用し、他の給食残渣は飼料・肥料にする徹底したりサイクル対策④体験型食育

の場、見学用設備の整備など地域への情報発信の工夫等があげられ、まさに最先端の施設でした。

現在、御殿場市内の5小学校、3中学校向けに約5千食の給食が調理・配送されているそうです。紀の川市においても、望ましい学校給食のあり方として、安心安全な学校給食を提供していくために、センター方式での施設整備を進めるとの方針が出されましたが、児童生徒の食育の視点にたち、現在の給食の質が低下しないように、また安全性を高めることを前提に早急な施設整備が必要であると感じたところで

PFI
(Private Finance Initiative)
公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法です。

HACCP
(Hazard Analysis and Critical Control Point)
原料の入荷から製造・出荷までのすべての工程において、あらかじめ危害を予測し、その危害を防止(予防、消滅、許容レベルまでの減少)するための重要管理点(CCP)を特定して、そのポイントを継続的に監視記録(モニタリング)し、異常が認められたらすぐに対策を取り解決するので、不良製品の出荷を未然に防ぐことができるシステム。



●御殿場市立南学校給食センター

次に、熱海市は全国的にも自主防災組織率の高い静岡県の中でも地域防災意識が非常に高く、現在、自主防災会結成率は100%ということ。その経緯は、昭和51年に東海地震説が発表され、国・県の危機感も高まる中、熱海市においても町内会へ呼びかけ「自主防災会」を結成されたのが始まりとのことでした。その後、各自主防災会の連合化が

叫ばれ、「熱海市自主防災会連合会」が結成され、これまで、市が貸与していた資機材についても補助制度を設け、自主防災会が地域の実情にあった独自の計画に基づき整備を行い予算は毎年約1千500万円とのことでありました。

また、熱海市市民安全条例を制定し「地域安全コミュニティ会議」を小学校区毎に設け町内会連合会を母体に、関係団体等が参画し「いまずぐで」ができること、みんなのできることをスローガンに防災・交通安全・防犯にいたるまで安全安心のまちづくりをすすめています。地震対策から始まった自主防災会は今や地域コミュニティの要となつているとの説明を受けました。

今後、紀の川市においても東海・東南海・南海地震も心配されるなか、災害発生時に地域の要である自主防災組織の構築は喫緊の課題であると共に結成後の持続性、活性化も重要であると認識したところ。です。

・富山県南砺市議会
7月27・28日、南砺市議

視察に来られました。

・愛知県みよし市議会
・和歌山県橋本市議会

8月2日、みよし市議会特別委員会・10月19日、橋本市議会議会改革検討会
の皆さんが議会広報の編集について視察に来られました。

会総務文教常任委員会の皆さんが2日間にわたり、紀の川市の食育推進計画を始め、地域防災計画や新庁舎建設、また貴志川線の利用促進や婚活事業に至るまでの取組みについて視察に訪れました。6項目について担当部から説明を受け、研修をされました。

・熊本県玉名市議会
10月5日、玉名市議会議会運営委員会の皆さんが新庁舎建設についてと議会運営について視察に来られました。
玉名市は、平成17年10月に合併し、平成27年度新庁舎の完成を目指し、設計に取り掛かっています。

視察は、まず、本市庁舎の設計概要を説明したあと質問をうけました。特に本市庁舎設計の基本方針としているエコ対策、地震対策について多くの質問がありました。また、議会運営についての研修は、委員の選任方法、定例会の開会から閉会までの流れ、一般質問の状況などの視察を行っています。



このたび台風12号の豪雨により被災されました皆様並びに関係者の方々に対し心からお見舞い申し上げます。

被害に遭われた地域の一日も早い復興を願い、議員一同から義援金を送りました。

特集

紀の川市の天然記念物

～紀の川市の歴史を見てきた巨木たち～

和歌山県は古代律令制度下での国名は紀伊国であり、それまでは「木の国」とよばれていたと言われています。

だから、我々は平野部の耕地が少なく、山林が多い和歌山県は林業が非常に盛んな県だと思っていますが、現在の林業算出額は全国で30位前後だと聞いて驚かされます。

また那賀地方は県下でも特に林業の少ない所です。

しかし、紀の川市の文化財のうち天然記念物は県指定8件、市指定16件、合計24件あり、その内樹木は21件指定されています。

ここに紹介する木々はその一部ですが、数百年の間、地域の人々に大切に守られ、成長してきた名木ばかりです。

古い言い伝えのある木もあります。これらの木々は、数百年の間ずっとここに住む人々の営みを見、また、人々はこれらの木を仰ぎ見ながら営々と歴史を刻んできました。

私達もこれらの木々を眺めながらこれまでのこの地方の歴史を思い、現在から未来へつなぐ我々の住む紀の川市を考えてみようではありませんか。

(写真・資料提供 田村 保雄氏)



しらかしの巨樹
所在地／麻生津中(九頭神社)
高さ／20m
胸高周／3.9m
樹齢／不明

シラカシは山野に生える常緑高木で樹高20mを超える。九頭神社本殿後方で社叢を形成する巨樹は主幹回り3.9m、樹高20m余りで、枝葉よく繁茂し大きな樹冠をつくる。材はアカガシより薄い淡紅色で農具の柄、船材等用途が広い。

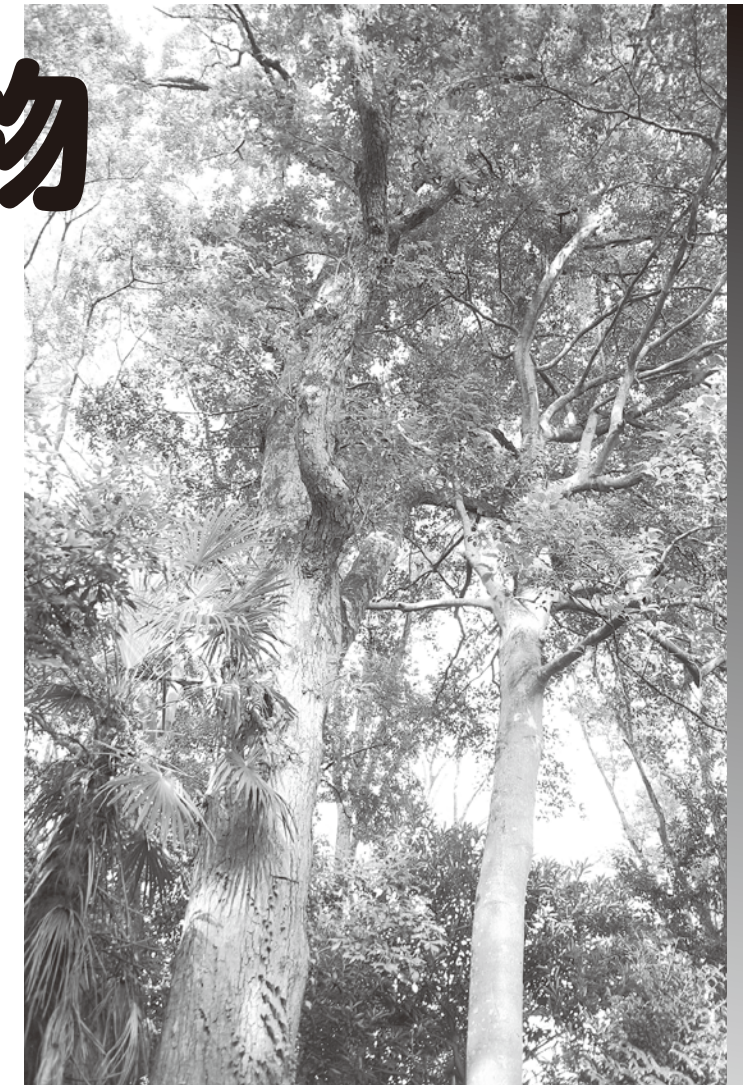
いわひばの天然群落
所在地／貴志川町西山(樫葉邸)

庭内全域、主に岩崖群落数1000本以上、最高草丈40cm以上あり、200～300年の歴史がある。



薬師寺の松
所在地／赤尾
高さ／7m
幹回り／2.3m
枝の開帳／830㎡
樹齢／400年以上

この松は幹の太さ胸高周囲2.3m、高さ7mに充たないが其の形状は甚だ風雅である。地上1m80の高さで枝の伸長、南に向かうもの13m60、東に1m80、西に伸びたもの11m50、北本堂に向かうもの9m30に及びその枝條の話屈雅致、葉の短くしまったこと、盆栽のようで風趣景観がある。



イチイガシの純林
所在地／調月(大歳神社)
高さ／36m
株周／4.2m
幹周／3.0m(最大)
樹齢／500年

大歳神社の社域にあり全林が、ほとんどイチイガシの純林となっている。近年社叢面積も株数も減少しつつある。樹数30株程度あるこの社叢は、貴志川の浸蝕から残された丘の上に発達したイチイガシの純林で、すでに1000年以上の歴史を有する大歳神社の社叢としてきわめて貴重である。

踞木地の大樟
所在地／粉河寺境内
高さ／16m(31mと表示)
胸高周／7.81m
樹齢／500年以上

粉河寺本堂の東鐘樓の横にある。寺伝によると粉河寺創建者、大伴孔子古が大きな木の上から下を通る鹿などを射て生活をしていたが、ある時、前方に光明を見た。その後、発願して精舎を建立したという。その狩り場としていた木は大きな榎であったが、現在はその地にこの大きな樟が生育しているのである。幹や枝の一部に腐朽の箇所が見られるが、根はしっかりと大地に張られていて樹勢は旺盛である。



☆ みんなでジャンプ
(10月9日スポーツフェスティバル)



☆ わっしょい わっしょい
子どもみこし (10月16日荒見九頭神社)



☆ 平和と慰霊の祈り (万燈会 毎年8月15日)



☆ 実りの秋になりました



☆ 災害に備えて (8月28日防災訓練)

編集後記

台風十二号による豪雨は、紀伊半島各地に大きな被害をもたらしました。お亡くなりになられた方々のご冥福と、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

市内においても床上浸水・池の決壊・河川敷スポート施設の損壊などの被害があり、自然の脅威を目の当たりにして、災害に強いまちづくりの必要性を強く感じました。

一方、秋の深まりとともに自然は私たちに「実りの季節」を与えてくれます。

果物王国・紀の川市では、これから柿、みかん、八朔などの収穫シーズンを迎えます。

美味しくいただく、これら大地のめぐみも自然の力なくしてできるものではありません。

今一度、自然にやさしい施策や一人ひとりがもつと自然との共生を考えていかなければならないと思うところです。

(A・S)

紀の川市議会 和歌山県紀の川市西大井338番地
 ☎ 0736(77)2511
 ☎ 0736(77)0862

Eメール / k010200-1@city.kinokawa.lg.jp